川柳マガジンファンクラブ東京句会

句評会　提出作品一覧

平成20年1月13日～

第十九回　平成20年1月13日

蝉ほどに絶叫したか問うてみる　村田倫也
ネットカフェ僕を検索できません　松橋帆波
お互いの嘘の喉越しコクとキレ　南野耕平
ＫＹは空気読まぬが風は詠む　植竹団扇
温暖化春一番が迷ってる　伊藤三十六
お化粧の下から鬼が現れる　五十嵐淳隆
終電車の美人お送りしましょうか　山口千枝子
初春の膳痩せた絆を撚り直す　小倉利江
目鼻立ちハッキリしても語尾弱い　井手ゆう子
野鼠は雪に偽装の白になる　甲野竜雄
青春譜裂けたムンクの叫び声　阿倍闘句郎
ソレキリノヒトデソレナリノツキアイ　髙田以呂波
右脳まだ叩けば少し作動する　石田きみ
黄落が札ビラならと暮の街　棚瀬くんじ
猫のいる我が家にも来たネズミ年　菅井京子
子育ての母は夜叉にも菩薩にも　渡辺まもる
お話の中なら愛すべきねずみ　横山きのこ
留守電に借金取りの叫び声　五味田達也
七草で腸整えて肌プルリ　水野絵扇

第二十回　平成20年2月10日

ネットカフェ建ってはならぬ風致地区　井手ゆう子
コーヒーの豆は納豆には不向き　植竹団扇
次の世も私やっぱり女です　山口千枝子
大国のテトラポットになる日本　五十嵐淳隆
平成の修正液は白過ぎる　伊藤三十六
義理の母から貰う義理チョコ　松橋帆波
玄関に都会砂漠の覗き窓　小倉利江
物忘れ長寿の付録かも知れぬ　白勢朔太郎
我が県もセールスマンを募集中　若山かん菜
二日程空ろに過ぎていく二月　村田倫也
信じても偽装社会に揺らぐ愛　甲野竜雄
本当の空腹をまだ知らぬ僕　南野耕平
産声が又議定書を重くする　加藤品子
甘やかなレースで武装する乳房　横山きのこ
寒中の海へ鍛錬気合入れ　関玉枝
ガソリン税道路にまいて福は内　棚瀬くんじ
俄雨パッと半開折りたたみ　髙田以呂波
手袋を脱いだ握手に嘘はない　石田きみ
想定外夢が崩れた薬包紙　宮内みの里
一病と上手に生きている手足　渋川渓舟
真実を通す優しい目に負ける　河野桃葉
父の背に夢は見るなと書いてある　渡辺まもる
隣より出来た娘がなぜゆけぬ　藤井成子
感知せずタッチし直す自動ドア　菊地順風
甘えたい甘えられないもどかしさ　水野絵扇
膝かかえ一人ぼっちの鬼もいる　星出冬馬

第二十一回　平成20年3月9日

霜柱朝のギクシャク踏んで出る　棚瀬くんじ
したたかなしわぶきひとつ古時計　三浦哲夫
飼い猫の求愛どこか人めいて　村田倫也
団塊の青春力が試される　加藤品子
薄型のテレビで首相薄く見え　五十嵐淳隆
恋という僕の大事な寄生虫　伊藤三十六
生命線ここで切れててまだ達者　石田きみ
霊柩車と擦れ違う古自転車　白勢朔太郎
ごくごくと乳呑みながら問う瞳　横山きのこ
悲しいほどに別れたくないでも時間　水野絵扇
義理チョコと念を押されてから不眠　植竹団扇
防人の平和ボケ知る日本海　藤井成子
騒音撒布受難天井　髙田以呂波
戦争をしない軍艦民を轢く　甲野竜雄

粉雪にそそのかされて逢いに行く　井手ゆう子
すねたような腰を残して別れ際　宮内みの里
馬鹿にした予報へ傘を買わされる　関　玉枝
一呼吸置いて言葉の棘を抜く　渋川渓舟
少子化へ出来ちゃった婚拍手され　渡辺まもる
ばらばらに食べる家族の菜を洗う　河野桃葉
風を呼びたくて右脳へマッチ擦る　小倉利江
アンタとは絶対見ないサスペンス　松橋帆波
猫ネタを封じられたら詠めませ　五味田達也
モザイクをかけて少年花落す　星出冬馬
幸せを掴む大きな手が欲しい　山口千枝子
鳴かぬならペットにしようホトトギス　若山かん菜
北風と遊ぶ電線弾き語り　石崎流子
この顔にピンと来たならチューしよう　加藤　鰹
リーダーはみんなにおだてられた猿　山口兄六

第二十二回　平成20年4月13日
黄砂舞う空に白鳥北帰行　石崎流子
ラストラン夜汽車の汽笛闇を抜け　若山かん菜
もう逢えぬ人と酌み合う時を止め　石田きみ
うちの子に限ってそんなことをする　五十嵐淳隆
正札と勿体付けて売っている　村田倫也
なりたくない早くなりたい六十五　棚瀬くんじ
宇宙から見れば地球は未だ青い　髙田以呂波
嫁任せ巣鴨へ今日も紅を引く　加藤品子
飽食のグルメに馴れたテレビジョン　浦川一平
宇宙基地いずれ地球を過疎にする　伊藤三十六
晒し者にされた乾杯のポーズ　白勢朔太郎
大陸の錆か黄砂が飛んでくる　丸山芳夫
挨拶代り中身の額がものを言う　山口千枝子
カーナビに詫びて選んだマイウエイ　植竹団扇
春を待ってる恋も桜も　水野絵扇
春の夜のピノキオの鼻誰も持ち　笹川可不可
少しずれ大きくずれて今の幸　井手ゆう子
利用価値あって大事にされている　河野桃葉
極上の笑顔遺影にしておくれ　横山きのこ
春たちがパッチワークに色をつけ　菊地順風
DNAひとつ削って咲き誇る　三浦哲夫
サクラサク打って飲んでる大ジョッキ　河野竜雄
お荷物にされてる後期高齢者　小倉利江
散ることのできる桜が妬ましい　松橋帆波
消しゴムの屑にまぎれている秘密　渋川渓舟
二番目に好きと書かれたハガキ来る　星出冬馬
年金の死なない程の有り難さ　関　玉枝
ゴミ屋敷住んでる人は何者だ　五味田達也
真夜中の爆音僕はここにいる　阿部闘句郎
出番待つベビーベッドの眠る納屋　秋山和子
階段の昇り方にも老いを知り　山口英語

第二十三回　平成20年5月11日
無いものを数えだしたら切が無い　五十嵐淳隆
七癖のなかの一つがわるさする　山口千枝子
野次怒号そして日本が決められる　伊藤三十六
風の音止むまで膝を抱え込む　松橋帆波
絵心を誘う夕陽の落ちる島　白勢朔太郎
重い荷がやっとおろせたリンリン君　若山かん菜
ドーナツの穴も風邪引く物価高　小倉利江
嘘のない人だ顔色直ぐ変る　村田倫也
ケータイを捨てて鈍行花の旅　甲野竜雄
嫌いな譬えに赤子の手を捻る　植竹団扇
日の丸の小旗の波はまだ優雅　棚瀬くんじ
KYが風穴を開け道を付け　高田以呂波
夢のない加齢へ神も哀れがり　石田きみ
価値観の違う暮しの窓あかり　河野桃葉
にせものと言われてからの男道　加藤品子
恩になど着せぬ溺れた蟻助け　横山きのこ
ほろ酔いに邪魔な運転手の多弁　菊地順風
祖父が買うもう五つ目のランドセル　関　玉枝
外出も今のうちだと医者が言う　水野絵扇
昼間からひとりカラオケごみ屋敷　五味田達也
思いやり下さい家計火の車　藤井成子
ゲーム機の子にリセットの利く命　丸山芳夫

第二十四回　平成20年6月15日
特別企画「川柳研究社」六月句会参加のため、
自由吟はありませんでした。

第二十五回　平成20年7月13日

心音を止めて命を休ませる　伊藤三十六
白桃の肌にそおっと刃を当てる　井手ゆう子
どれがどの町の事件か判りかね　五十嵐淳隆
赤子抱く妻は保護者の腕になり　甲野竜雄
実話です日本沈没上映中　若山かん菜
ハリウッド映画の規制語られず　松橋帆波
遊んではいけない人と遊びたい　村田倫也
胴上げに千手観音手を貸さぬ　白勢朔太郎
上がらないものは夕日と給与だけ　平松　健
達筆を半分カンで読み終える　佐道　正
たっぷりと老に甘えて生きてます　山口千枝子
友の訃にふと立ち止まる死生観　小倉利江
名医だよ母の一声チチンプイ　浦川一平
年金を芝浜と見てする預金　加藤品子
釣銭の手と手が触れて通う店　菊地順風
うらおもてある手のひらで握手する　渋川渓舟
高齢の線を引かれて納まらず　石田きみ
運ちゃんにチップを貰うお役人　棚瀬くんじ
娘のケータイ鳴ると家中耳となり　渡辺まもる
取り柄なくスポットライトあたる夢　藤井成子
クラス会小学生にすぐ戻り　高田以呂波
印鑑を嫁に委ねて旅に出る　河野桃葉
骨盤が平行移動するダンス　丸山芳夫

第二十六回　平成20年8月10日

老衰というあっぱれな終わり方　伊藤三十六
ボタン二つ外してみるかお洒落して　白勢朔太郎
鳥の巣に怖いカラスがいなきゃいい　棚瀬くんじ
熱帯夜一寸寝不足明烏　高田以呂波
パイプ役して友情の和をつなぐ　石田きみ
神代から困った時の米頼み　加藤品子
何時か死ぬもうそれ以上考えぬ　村田倫也
蒟蒻の畑でデートするメタボ　植竹団扇
そう言えば近頃紅もつけてない　山口千枝子
彼氏争奪共に振られる　水野絵扇
猿山のボスが一番寂しそう　浦川一平
古傷を風に晒して強くなる　渋川渓舟
はてここはどこだ電車で目が覚める　佐道　正
模倣犯多すぎ主役奪われる　若山かん菜
震度7トイレで五秒前の予知　渡辺まもる
素潜りはアルキメデスに逆らって　井手ゆう子
追っかけのファンに予定を確かめる　丸山芳夫
触れた手が男の地熱記憶する　横山きのこ
棲む魔物手繰り寄せてはメダル獲る　菊地順風
熱帯魚だけが元気な熱帯夜　松橋帆波
ピピーピピー添乗員が焦ってる　秋山和子

第二十七回　平成20年9月15日

銀行のカメラになぜか目を伏せる　伊藤三十六
青春に忘れ物した取りに行く　加藤品子
独り居にあれ鈴虫が鳴いている　水野絵扇
ステップはジャマイカあたり新記録　植竹団扇
親切が感謝されないお節介　高田以呂波
餃子から隣の政治垣間見る　甲野竜雄
動かない姑ヨメよりよく食べる　山口千枝子
奉賀帳嫉妬と自慢入り交じる　浦川一平
確かめる重さと匂い新刊書　井手ゆう子

元々は武器携帯のボランティア　村田倫也
何の日か思い出せない日章旗　佐道正
餃子より美談に当たる五輪中　若山かん菜
晴天に巻かれたホース伸びをする　棚瀬くんじ
解散と天にいななく岩手馬　平松健
人生をいろはにほへと泳ぐ妻　藤原栄子
永遠の命は無いがさりながら　小倉利江
けんけんの耳から熱い海の水　丸山芳夫
近道という矢印にある不安　渋川渓舟
ニコチンも出るのだろうか尿検査　松橋帆波
人間はエライか　自然指揮出来ず　横山きのこ
空き部屋に風鈴だけが良くはしゃぎ　関玉枝
水平線の裏側きっと朝寝坊　白勢朔太郎
人よりも犬に挨拶朝散歩　末田りつ子
ポニョポニョとしゃべる子がいて輪がひとつ　菊地順風

第二十八回　平成20年10月15日

華やかな系譜日本が痩せて行く　伊藤三十六
ケータイがケーキ入刀取り囲み　佐道正
今も昔もキミは青空　松橋帆波
シャンソンもお経も同じ耳で聴く　白勢朔太郎
ネットカフェに透明人間が群れる　小倉利江
先生が汚職するならボクもする　村田倫也
素っぴんを義母の鏡が睨んでる　甲野竜雄
消火より放火の方がおもしろい　植竹団扇
馬鹿なわたし昨日と同じことをする　山口千枝子
ブンベツをしない袋が抱く火ダネ　五十嵐淳隆
ユニクロを着てユトリロの街をゆく　棚瀬くんじ
不躾な目を捕まえて目で咎め　高田以呂波
相槌を打つだけでいい茶を替える　石田きみ
日本人ＤＮＡが並ばせる　加藤品子
困ります歯科医の胸が触れてくる　菊地順風
ただそこに居たから刃向けられる　関玉枝
半分個されるの待っている林檎　水野絵扇
夢で見た夫婦げんかでまたけんか　横山きのこ
ケータイを帆柱にして人の群　丸山芳夫
捨てられる毬に弾んだ過去がある　渋川渓舟
いちぢくを抱ぐとカラスが小うるさい　秋山和子
お互いに生命線を見比べる　藤原栄子
風邪ひいてやさしい妻になっている　末田りつ子
秋深し政治年金身にならず　土江裕美
払ってもまた払っても秋の蝿　山菅恵子

第二十九回　平成20年11月9日

柿の木を植えて実が成るまで生きる　甲野竜雄
湯に漬けて酒を注ぐと生き返る　植竹団扇
母さんを信じておんぶされている　山口千枝子
粉飾を知ったマウスの背が寒い　五十嵐淳隆
キッチンをリニューアルして作らない　井手ゆう子
マルクスを売りに行ったら嗤われた　星出冬馬
来てみるとちょっとうれしい特別便　佐道正
帰省する休暇届で山にいる　星野睦悟朗
突然の目眩昨日が堕ちてゆく　石崎流子
どきどきを色々腑分け心電図　棚瀬くんじ
咳ひとつＴＰＯで使い分け　髙田以呂波
一生を描いた地図は夢のゆめ　石田きみ
アメリカを恋人にした国が泣き　加藤品子
呼ばれてる漫画佳境へ返事だけ　関玉枝
逃げるとき以外のそのそ歩く猫　水野絵扇
昨日今日明日見栄なく夕暮れへ　藤井成子
八分音符のようにゴルフのピンが立ち　丸山芳夫
明日を見る眼鏡ときどき拭いておく　渋川渓舟
紅引いて今日も男を食べに行く　渡辺ま

もる

顔見知りなかなか名前浮かばない　藤原栄子

おせっかいよけいな事をしては悔い　末田りつ子

昼の月バケツに張った薄氷　横山きのこ

猫馬鹿だ猫の供養に５万円　五味田達也

軽トラで畑へ逃げる嫁の鬱　秋山和子

歩いてるうちに永生きしたくなる　伊藤三十六

住宅街マネキンひとり捨ててある　菊地順風

泣いて済む話さ痛くなんかない　松橋帆波

本人は覚えていない自己主張　村田倫也

夕食に割引シールなき奢り　エルヴィス

ムンクの「叫び」病める地球に問うている　白勢朔太郎

第三十回　平成20年12月14日

忘年句会として、川マガ風袋回しを行いましたので、

句評会はお休みしました。